

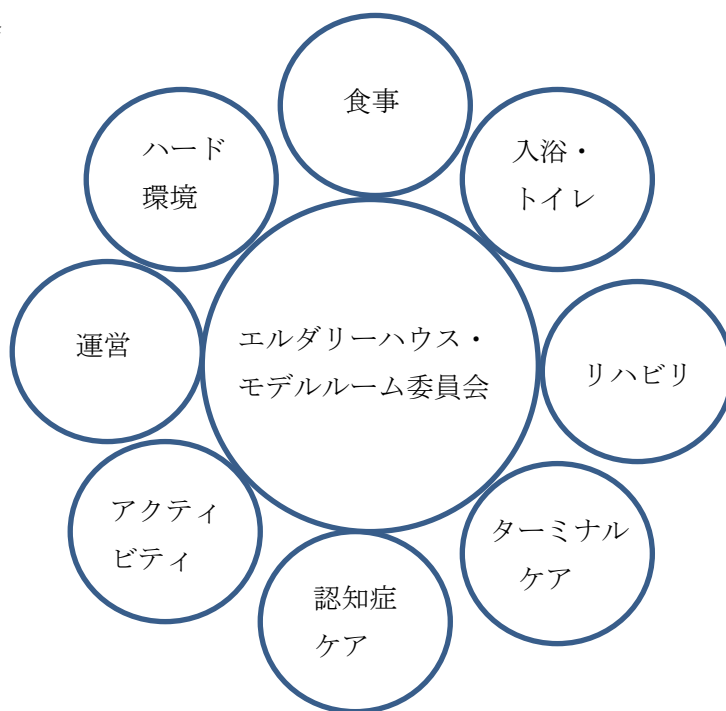
# エルダリーハウス・モデルルーム委員会中間報告

高齢者住宅支援事業者協議会（以下、高支協）の事業部会では、理想とする未来型高齢者住宅のあるべき姿の実現に向け、8つの分科会で具体的な検討を行っています。同分科会は、「食事、入浴・トイレ、リハビリ（リハビリテーション）、ターミナルケア、認知症ケア、アクティビティ、運営、ハード・環境」の8分野で構成されています。

各分科会は高支協のメンバーで構成され、直接自社の製品とは関わりのない分野の分科会に属しているメンバーもいますが、横断的な勉強も兼ねて各分科会は進められています。

中間報告としてこれまでの内容をまとめ、今後の方向性を確認する意味で中間報告会を開催しました（表参照）。

## 8つの分科会



## 中間報告の内容

分科会	テーマ	内容
食事	人生を楽しむ食事	食事を給食という概念から、介護サービスとして捉える。 1.選ばれる食事、2.自由な食事、3.健康な食事、4.経済的負担軽減、5.ITCの活用、6.快適な食事環境について具体的に話合った。
入浴・トイレ	本人の自立支援を促す仕組みとプライバシーを保てる空間の確保	入浴は、身体状態に応じて可変できる浴槽と昇降するエプロンを提案。事故防止になるようなセンサーも今後探究。 トイレは、安全な移動と移乗ができる機器を検討。腰痛防止についても研究していく。
リハビリ	高齢者住宅におけるリハ	健康寿命を延ばし、日々の生活レベルを

	ビリの提供	維持する為、苦痛なく継続できるリハビリを検討。排尿・排便につながるヨガ、記憶力を増大させるリハビリ、仕掛け学の活用、医療用プログラムデータなどの活用を検討。
ターミナルケア	看取りが標準化されたホーム形成	入居者と家族間の調整や医療や看取士との連携役として「ターミナルコーディネーター」をホーム内に配置する。 今後は、ターミナルコーディネーターの定義や配置を実現するためには何をどうすればよいか検討。
認知症ケア	認知症になっても大丈夫といえる住まい	認知症の人が700万人時代に、認知症になってもだいじょうぶな社会の実現を考える。具体的には①音楽・似顔絵・照明・色彩アートセラピー②外出支援・排泄介助・介護者負担の軽減などについて研究。 外出支援や睡眠サイクルの確保など、多角的かつ重層的な支援を行うことで、本人自身が自立できる喜びや自信を持ち続けられるような方策を練り上げることが大事。
アクティビティ	生きがいを提供するアクティビティ	レクリエーションは、参加者合同型で提供されるケースが多いが、個人毎や介護度、年齢を含めた身体的ステージ毎に提供することを検討。 個人毎にも、健常時、要介護時によっても生きがいは異なる。 新しい体験（支援機器、ロボット、VR等）、働く・稼ぐ、社会貢献（役に立つ）等の生きがいについて今後検討。
運営	顧客満足を得る運営サービス	高齢者住宅はサービス業という位置づけで、居心地の良い空間の中で満足を得られる理想的な高齢者住宅運営の在り方を追求。人材確保・作業効率化（IT導入）・知識の教育・運営リスクの管理・サービスの向上の5つに分けて検討。
ハード・環境	マンパワー不足をサポートするハード、技術開発	ゼロエネルギー、自然エネルギーを利用し、IoT、AI、介護ロボット等を活用して、介護の質、量を改善し、働き手、マンパワー不足を補う技術開発を行う。